

自己評価報告書(最終報告)

報告者

国際教育コース／石村 雅雄

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

近年、文科省科研費採択から遠のいているので、申請テーマを変更する予定である。具体的には、ここ3年、自らの研究実績を考慮し、ベトナムを対象とした教育制度研究を申請してきたが、本年度の申請からは、自らのもう一つの研究テーマ(地方政府の役割研究、旧海部町における超雇用教員制度改革研究等多数報告済み)である、地方教育行政制度改革、とりわけ、教育意思調達のための首長・議会の役割研究(教育委員会廃止を念頭に置く)について申請するつもりで、現在、秋の申請に向けて、研究動向を再把握している。

この他の外部資金についても、積極的に情報を収集し、申請や研究費寄付の申し出をおこなう。

2. 点検・評価

当初の予定どおり研究テーマを変更し、かつ、石村の研究についての準備状況を踏まえて、文科省科研費申請を基盤研究B(海外学術調査)「フランス語圏アフリカにおける教師教育システムの構築」と題する申請を行ったが、不採択であった。

この他、「ASEAN諸国における市民性教育とアセアンネスのための教育に関する国際比較10か国調査」の研究分担者として、本年も活動した。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

昨年度実施したとおり、国際教育コースの魅力さをさらに知ってもらうために、コース独自のポスター、パンフレットの作成、配付(郵送、手渡し)を引き続き、積極的に行う。関連雑誌にも積極的に働きかけ、本コースの情報の掲載を働きかける(現在、1件働きかけ中で、実現できそうである)。様々な機会に本学への進学を勧めるのは当然である。

この他、中国、ベトナム等の学生に対しても、本学の魅力を語り、進学を勧める。

2. 点検・評価

国内諸大学、諸機関への広報文書(国際教育コースのポスターを新たに作成)の配付は予定どおり実施できた。また、関連雑誌『国際協力ジャーナル』への本コースの記事掲載も実現した(平成24年5月)。

受験生の獲得についても、中国からの研究生に対して継続的な指導を行い、大学院受験、合格に結び付けることができた。この他、日本人学生についても、本学、本コースの情報提供、勧誘を積極的に行い、同様に大学院受験、合格に結び付いた。

新たな中国人学生の獲得に関しても、電話、インターネットを通じた継続的働きかけを進め、①本人の日本語検定N2合格を得て、来年度から本学研究生として、来学している。1年の研究生の後、本学大学院を受験予定である。②本人(N1合格済み)との綿密な連絡により、この4月から研究生として来学しており、8月の大学院受験を予定している。

この他、何度かの働きかけにより、ベトナム人学生から、本学受験についての問い合わせを受けている。石村は、希望研究テーマ(日本語学の語彙使用に関すること)に近い、教員と連絡を取り、その仲介を果たした。この学生については、研究テーマの変更の可能性が生じ、取り敢えず、2013年度後期から、大学院研究生として本学に来学することとなり、来学後、本学大学院への進学を相談することとした。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・外国人学生を担当することから、彼らの学習等に関する要求を丁寧に拾うように心がけ、本学での生活が充実したものになるようにサポートする。
・学生の自ら学ぶ意欲を醸成するため、双方向的な授業を心掛け、授業Web. ページの開設やそこに記される学生の意見に丁寧に対応するように心掛けること、及び学生達の現状把握に心掛け、形成的評価及び双方向的評価を目指すこと、を目指すため、先進的事例の収集・分析に心掛け、自らの授業に反映できる仕掛けを工夫する。
・本年度より顧問をする阿波踊りサークルの学生からのサポート要請(具体的には、踊りの装束、機器等の手配)に積極的に取り組む。

2. 点検・評価

・外国人学生を担当することから、彼らの学習等に関する要求を丁寧に拾うように心がけ、本学での生活が充実したものになるようにサポートした。とりわけ、学習方法、論文の執筆の仕方等について、日本人学生には見られない弱点が見受けられたので、その面での指導を強化した。
・130名程度の学生が受講した「教育制度・経営論」では、毎回学生が記述する「何でも帳」を使用した双方向的講義を展開し、毎回、全部の学生の記述に対してコメントをつけ、かつ、その一部を使用する形で、学生の文脈、需要に応じた講義を実施した。
・本年度より顧問をする阿波踊りサークルの学生からのサポート要請に積極的に応えた。
・長期履修学生支援センターの活動について、センター長からの要請により、100名規模の教員採用試験対策講座「教育法規」を3週にわたって担当した。

II-2. 研究

1. 目標・計画

1教育政策形成・実施過程研究
現在の教育に対する住民意識の変容に応じた教育政策形成・実施過程の構築を目指すため、首長や議会が主要な役割を果たす地方政府の教育政策形成・実施過程の事例研究を進める。また、現在の研究動向について、資料収集を行う。
2授業参観を基礎とした大学教育改善に関する全国的な動向、これまでの実践の整理、および理論構築を行う。
3フランス研究
新高等教育法、及び新たな大学評価機関であるAERESの動向に関する資料収集・分析を行う。また、この成果をもとにしつつ、フランスにおける現代大学管理・運営分析に関する総合的分析を進める。本年度は、1980年代の議会資料の収集・分析を中心に進める。
4発展途上国教育システム研究
ベトナム・ベンチェー省、パラオ共和国及び仏語圏アフリカ諸国(今年度はコートジボアール、セネガル)の教育システム援助実践を理論的に考察する。そのため国際開発関連の諸業績の収集分析に努めるとともに、該当分野の専門家との研究討議を進める。とりわけ、教育援助を進める上での、周辺分野との協力、現地の自立的開発の進め方を中心に進める。

2. 点検・評価

1については、徳島県海部町の実践、大阪府吹田市の実践について、資料分析を進めるとともに、関連先行研究について検討を行った。この成果については、本年の中四国教育学会にて、「教育政策形成・実施過程の分析的研究」として報告した。
2については、本年度も実施したこの実践について、分析を進めたが、未だ、公表するレベルまでには至らなかった。
3については、これまでに収集した関連資料の分析を進めているが、若干視点を変え、大学での授業分析に焦点を当てて、考察を行った。この結果、石村が担当しているフランス語圏アフリカ諸国への教育協力にこの考察が応用でき、2月に実施されたフランス語圏アフリカ研修及びフォローアップ研修で「フランス式」授業検討(classique critique)の問題点を明らかにすることができた。
4については、関連文献の分析が進んでいる。また、コートジボアールとは、インターネットを通じて、日常的な情報交換を行った。この成果については、本年度の科研費申請につなげることができた。ベトナムについては、記述した教育協力に伴う、専門的知識の収集(「市民教育」の専門家(担当教員、校長、行政官等)100名からの情報収集)・分析の他、ASEAN諸国における市民性教育とアセアンネスのための教育に関する国際比較10か国調査を継続しており、その成果を日本教育制度学会において、「ベトナムにおけるASEANness教育の現状と課題(その2)」と題して発表した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ・本学の運営がよりスムーズになるように、自らがもつ能力(FDについての経験、国際経験等)を最大限生かしていけるように、委員等を積極的に引き受ける。
- ・大学のより裁量範囲の広い運営を可能にするために、科研費や民間団体等の様々な外部資金に応募し、大学独自資金の増額に努める。
- ・本学の学生の増加による、余裕ある運営を可能にするために、様々な機会に本学への進学を勧める。
- ・そのために、国際教育コースをより魅力あるものとするための様々な工夫を進めるとともに、宣伝広報活動に積極的に参加する。

2. 点検・評価

- ・目標については、科研費申請を為すことができ、本学への受験勧誘もⅠ-2に記したとおり、大成功といっていい成果を獲得することができ、宣伝・広報活動についても積極的に参加をすることができた。FDについては、全学の委員会が教務委員会に吸収されたため、当初思ったところはできていないが、コースのFD担当教員として、「授業観察による授業改善」手法を用いたFD活動を展開し、報告書を作成、提出した。国際経験については、本学が引き受けている各種教員研修への協力、「第5回中日教師教育学会研究集会」準備委員としての活動、参加、研究発表2件(1件は個人研究、1件は院生との共同研究)等、積極的に活用することができた。
- ・長期履修学生支援センターの活動について、センター長からの要請により、100名規模の教員採用試験対策講座「教育法規」を3週にわたって担当した。本講座の実施については、予算上の支援がなく、コースからの持ち出し企画となっているので、改善をお願いできればと考えています。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ・社会との連携: 教育支援講師として、要請があれば、積極的に引き受け、専門を少しでも社会に貢献できるよう、心掛ける。
- ・国際交流等: 平成17年度より続いている、徳島県松茂町のボランティアグループ「はーとふる松茂」のベトナム教育援助事業に専門家として協力し、現地での協力事業の成功に貢献するとともに、それが、松茂町の活性化にも繋がるよう、仕掛けを工夫・提案するとともに、ボランティア実践にも携わる。
- ・本年度の大学院学生及び研究生(中国)への指導を通じて、当該国との交流拡大に努める。とりわけ、本年度開催される「第5回中日教師教育学会研究集会」の成功を目指す。
- ・国際教育コースに関わる諸事業(サブサハラ仏語圏教員研修、南大洋州教員研修等)に積極的に参加し、事業の発展に貢献する。今年度は特に、フランス語による研修が可能となるように、自らの能力の研鑽に励みたい。

2. 点検・評価

- ・徳島北高等学校における「University in 徳北」及び富岡西高等学校に講師として赴き、教員志望者の高校生に対して、講演を行った。この他、淑徳大学(千葉県)大学改革室からの本学での優れた学生指導の取組に対する情報提供要請に対し丁寧に応対し、本学の教学の優秀性について十分伝えることができた。併せて、当該大学からの本学大学院への進学についても協力を得られることができた。
- ・松茂のボランティアグループの活動について、引き続き、専門的助言を行い、この8月に図書館建設という具体的成果を得ることができた。本件については、徳島新聞、FM徳島等で報道された。今後は、そうして設備、備品を用いた教育方法の援助について、現地の教員と協力して、進めることを考えている。
- ・日常的な中国人留学生への細かく、暖かな指導に努めた。「第5回中日教師教育学会研究集会」にも準備委員として、2件の報告(1件は単独、もう1件は中国人大学院学生との共同発表)を持って参加し、併せて、中国人研究者と積極的な意見交換を為すことができた。
- ・南大洋州教員研修に積極的に参加し、事業の発展に貢献した。1-2月に実施された「フランス語圏アフリカ諸国への研修」については、本年度、例年より多くの参加者を迎え入れることから、準備をより詳細に展開し、とりわけ、フランス語による研修のスムーズな実施をすることができた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

国際的な教師教育に貢献する本学の優秀性について、毎日新聞「研究の現場から」の取材を受け、掲載された。